



からしだね

2013年
11月号 (488号)

キリストの受難
カトリック池田教会

共同宣教司牧: 畠 基幸神父・染野治雄神父
協力司祭: デニス・マックゴワン神父
住所: 〒563-0041 池田市満寿美町9-26
TEL : 072-751-2400 FAX : 072-753-4624
URL(ホームページ) :
http://www.wombat.zaq.ne.jp/catholic_ikeda/



巻頭言	2	典礼委員会から	3
ドレミの会から	3	ガラスケースの言葉	3
池田教会バザー	4	日曜学校ハロウィンパーティ	4
からしだね俳壇	5	宝塚黙想の家から	6
財務委員会から	6		

表紙写真: オーストラリア・ゴールドコースト 聖ビンセント教会
撮影: 神崎 茂

※ 聖堂入り口で配布しているものからの抜粋版です
完全版をご希望の方は、お近くの広報委員までお問い合わせください

巻頭言

信仰年の実りを思う

畠 基幸神父

第二バチカン公会議開催50周年を記念して始められた信仰年は、今年11月24日「王であるキリストの祭日」の日にその幕が閉じられます。この一年間、信者一人一人、小教区、教区、と全教会を挙げて取り組むように励まされました。その中で、信仰年を推進した教皇ベネディクト16世自身が教皇職を辞任するという予想外の出来事が起こりました。そして、コンクラーベで選出された後継者は、アルゼンチン出身のイエズス会士、フランシスコ教皇です。教皇自身のキャラクターや言動が逐次新聞やメディアによく登場するようになりました。日本の新聞までもが教皇庁改革も間もなく始まるというニュースと分析を掲載するようになりました。

信仰年の実りは、全教会を福音的な新しいあかしの時代へと方向づけるようです。ディダケー（教え）の教会からケリグマ（宣教）の時代へと、これまで歩んできた道を反対に歩むような道です。それは初代教会の宣教の時代への回帰です。宗教ではなく、キリスト教信仰へと明確に意識した本来の姿に近づき、福音の神髄に、イエスを「生きておられる主キリスト」と告白する教会のあかしの生き方を要求する原点への回帰と未来の姿が指し示されたのだと思います。

例えば、イエズス会の会報の編集長に、「あなたは何者だと思いますか」と聞かれて、教皇は「罪びとです」と素直にお答えになりました。イエスを除けば、誰一人として高みから人を裁くことはできないし、そのイエスも仕える者の姿で私たちの足を洗い（清め）、へりくだって私たちの罪を担い、十字架の木に登られたのです。「あわれみ、そして選んだ」という教皇の紋章に飾られたモットーは、召命の決意を促す福音箇所の説教のことばから引用されたと紹介されていますが、人はキリストのあわれみ（いつくしみ）によって、再生し、新しい命（使命）を生きるようになるとの自分自身の体験を踏まえて、この言葉を選ばれました。そして、この意識は、教皇フランシスの言動に反映され、マスメディアが追っかけるほど、ユニークで型破りですが、その一つ一つがなるほどとうならすほど福音の生きた姿が彷彿と現れてくるのです。

トップの教皇が、刷新の頂点にあるとすれば、その部分教会の支部ともいえる小教区も変わらなければならないと思います。私自身は、相変わらず閉じこもった世界にいます。なかなか変身できません。皆様もどうでしょうか？変身できますか。教皇様のような意識と行動ができますか？「聖書と典礼」の年間第30主日の囲い込み記事「信仰年と私たちの信仰4」（稲川保明・東京教区）の指摘では、「少数派の強みとは何でしょうか。多数派になってしまうと現状維持を望みがちです。」とあります。現実のところ、わたしたちは少数派なのに、現状維持を望んでいます。主日のミサが毎週行われ、すべては問題なく回転しているように思いますが、少しずつ集まる信者が減り、以前よく来ていた人が高齢で来られなくなっていたり、病気で入院されていたりしています。

しかし、何もしないまま、現状を維持しようとしています。「少数派だからこそ、誰かに責任を背負ってもらうのではなく、自ら背負っていかなければなりません」。稲川神父さんの指摘はズバリわたしの心を見透かします。きっと次に若い元気な指導力のある神父が赴任して良い司牧をしてくれるだろうと思うことがたびたびあります。召命のための祈りも熱心に祈っているから将来は何とかなると思うのですが、後継者はいまだに現れてこないのです。皆様もこのままずっと続くと考えておられるかもしれませんし、そんなことは信者が考えることではないと思われるかもしれません。この現状を維持するだけでも力不足を感じるわたしは、信仰の実りをまだ見ることができません。しかし、一つの発見がありました。イエスのことばと行いにおいて、死に至るまで従順であられた子としての御父への道です。それは、新しい掟、「わたしが愛したように互いに愛し合いなさい」

(ヨハネ15:12)そして、「友のために自分の命を捨てること、これ以上の愛はない」(ヨハネ15:13)によってしめされた「義と平和と喜び」(ロマ14:17)という神の国の実現を信じるならば、世界は変わることです。創造主、聖霊は、生きているキリストの姿を教皇フランシスコを通してしめし、教会に生命を吹き込まれるからです。

信仰年が終わる今、皆様はどのような信仰の土台を確かめ深めてこられたでしょうか？司牧チームが提供できたのは、「教え」だけです。それも随分と不十分なものです。わたしとしては、新約の「新しい契約」の意味を皆様が理解し、愛の霊、聖霊の豊かな注ぎと満たしにより刷新されて、教皇のような自由自在の新たな信仰の日々を始められるように祝福し祈ります。これが新たな出発となるように願って！

典礼委員会から

- ・11月の死者の月のミサカレンダーを張り出しますので、ミサ依頼者は、記入してください。
- ・11月2日 死者のためのミサが19:30からあります。
- ・11月17日 七五三のお祝いをします。
- ・11月24日 信仰年の閉祭ミサがカテドラルであります。



ドレミの会から

いつも「ドレミの会」にご協力ありがとうございます。
12月14日(土)にドレミの会のクリスマス会が行われます。
毎年お願いしておりますが、お家に眠っている小物がありましたらクリスマスプレゼント用に、ご寄付ください。サンタの贈り物なので出来るだけ、使っていないものをお願いいたします。
カール記念館和室に、箱を用意致しますので、その中に入れてください。
12月14日午前中まで、受け付けます。どうぞよろしくお願いいたします。(村嶋)



11月のガラスケースの言葉

実に信仰は聞くことにより、
しかもキリストの言葉を聞くことによって始まるのです。
(ローマ10:17)

池田教会 バザー (10月20日)



日曜学校 ハロウィン パーティ (10月26日)





からしね 俳壇

松本善一

つと踵返す湖上の鬼やんま
小上がりの壁に番付衣被

大西冬子

おしほりのほどよき温み栗のめし
ちぐはぐに残る錠削るをる寒

厚田寛子

雁鳴くやひとつはうれし傘の骨
月熟といふことあり木の奥降る

馬場とよ

宿帳にへその筆跡秋思ふ
日が落ちて二首自となる花野のほ

赤井ひろ子

今宵また月の兎は泣いている
秋天や無限に挑む心地して



澄む秋の航路は確しかと北を指し
大晴水や野に数々の秋桜

亀甲泰子

頬張りしまま散りゆける箱雀

森山真美子

絵本読む声のうれし窓の月

仲和子

ため池の静けさにあり後の月

萱みちにそへる野川の静けさよ

岩尾純枝

パンパスの穂の豊かさやいつか秋

ミサ曲を聴きつつ秋を病みにけり



宝塚黙想の家から 黙想会のお知らせ

私たち、キリスト者に与えられている宝は、神のみことばである聖書です。
黙想の家では、毎月みことばを深く味わう集いを行っています。
宝は大事にしたいですね。

■ 日帰り黙想会

11月21日(木) 10:00～15:30	指導：山内十束神父	費用：3,300円
11月22日(金) 10:00～15:30	指導：山内十束神父	費用：3,300円

※ 申し込みは、黙想の家まで TEL. 0797-84-3111

財務委員会から

★ 9 月度の光熱費

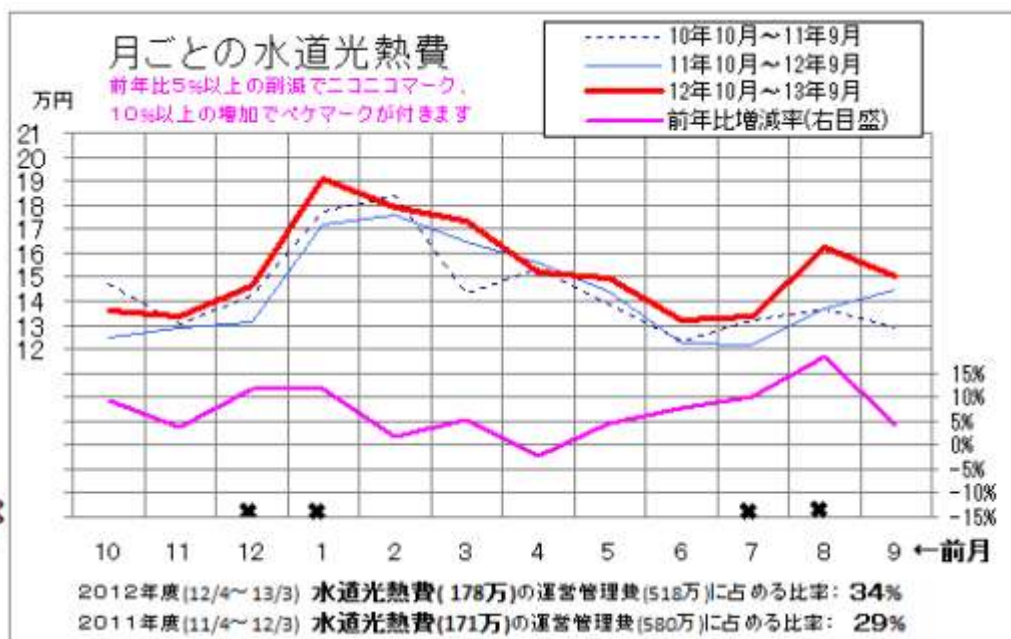
電気代 123,076円 ガス代 5,230円

《直近1年間の光熱費の推移》

9月度は全体が前年比プラス4パーセントでしたが、電気代の値上げ分を考えると前年度並か少し節約できたのではと思います。

8月は教会行事も少ないので、冷房などの使用量も少なめかと思いますが、9月がずっと暑かったことを思うと皆様がこまめに節約に心がけてくださったのではと思います。引き続き、節約につとめて、少しでも光熱費の負担を少なくしていけたらと思っています。

これからも、皆様のご協力をよろしくお願いいたします！



編集後記

記録的な暑さにうんざりしたのが嘘のように涼しくなりました。「秋晴れ」のさわやかな毎日です、と言いたいのですが、伊豆大島では台風のせいで犠牲者がたくさん出ました。被害にあわれた方にはお見舞い申し上げます。さて、こうして編集後記をしたためているのは、年に一度の教会バザー開催当日10月20日です。掘り出し物は見つかりましたか？売り上げは池田教会や震災被災地などで使われます。きっと喜んでいただけるでしょう。教会員同士の親睦と奉仕のために活躍してくれることを念じつつ。

(直)